

中国 香港特別行政区 UWC 香港校 丸山 さん

留学期間 H28.9.4～H30.5.31

1 留学の成果

1 年間の留学生活で身に着けたことは自分を主張する力と個々を尊重する心持ちだ。学業面でそれらを学ぶ機会が多かった教科は美術（ビジュアル・アーツ）だ。私たちは作品を作ると同時に、その過程を論理的に説明しなければならない。作品の出来よりもその過程が評価されるのだ。日本での美術の授業とは全く違うこの進み方に最初は戸惑いを感じていた。しかし、1 年間のこの授業を通して多くの技術を身に着けたように思う。自分のアイデアや主張をアートとして表現する技術、またそれを他人に説明する技術である。自分の考えを主張するときの手段の一つとして美術というものを持っていること、そしてそれを英語でしっかり説明できることは留学生活で身に着けた自身の強みだと感じている。また、美術の授業中では生徒同士がそれぞれの作品に対して視覚的分析や意図解釈を行う。私の作品に対して話し合ったとき、他の生徒たちが私の意図とは全く別の解釈をしたことがあった。その意見を的外れと取るのではなく、尊重したことで作品をより理解しやすいものに発展させたり、時には作品により深い意味を持たせたりすることができた。

私たちのカレッジでは定期的に国際的な問題について学校全体で話し合うフォーラムが設けられている。そこでは予想もしないような意見が飛び交い、毎日が新鮮な体験だ。生徒それぞれの意見はどんな意見であっても尊重される。もちろん私たちは意見に対して賛成・否定の色を示すことが許されている。熱い議論が交わされるのは毎回のことであるが、これも意見の尊重という基本の上で成り立っているのだ。賛否に関わらず意見を「尊重する」ことは、私にとっては物事を多角面から見るという行動を習慣化するのに深く影響していたと思う。

次に、留学生活で学んだのは異文化理解、そして文化の捉え方だろう。個々の文化を披露し共有しあうイベントであるカルチュラル・イブニングではそれぞれの文化の固有のものや、それらの素晴らしさを学んだ。一方で、普段の生活では異文化の中でも共通する理念や考え方などを学んだ。例えば、友達がけがをして私が日本の「痛い痛い飛んでいけ」の話をしたときに、それぞれ自分の文化ではどうするかについてちょっとした会話があった。やり方は違うがみんなが似たような風習があった。これが文化は違うが、人間として共通の理念を持っているということなのだと思う。文化の違いは壁ではなく、人間として同じなのだと学ぶための手段になるのだと学んだ。私は、友達とそれぞれの文化で違うところや似ているところについて話しているとき、留学して良かったといつも感じている。



2 履修状況、課外活動等

(1) 履修科目

Japanese A self taught (Standard Level)、English B (Higher Level)、Biology (SL)、Economics (HL)、Math (HL)、Visual Arts (SL)、Theory of knowledge

(2) 課外活動および受賞歴等

Sino-Japan Youth Conference (日中青年会議、クラブ活動)、Lion Dance (クラブ活動)、Cooking For Healthy Life (クラブ活動)、Swimming QC (クラブ活動)、Café (クラブ活動)

3 今後の活動予定

この1年間の留学経験で授業や生活の中では論理的思考がいつも問われていた。私が履修している科目の中に美術（ビジュアル・アーツ）がある。もちろんこの科目でも論理的思考が問われる。私はこの授業で美術という学問の新しい捉え方を学んだことで、より興味を持った。だが同時にまだまだ他の教科、学問への興味も尽きない。よって、進路として海外の総合大学において、美術を専攻または、選択科目の一つとしたいと考えている。

4 記録写真

【1年生のアートエキシビション】



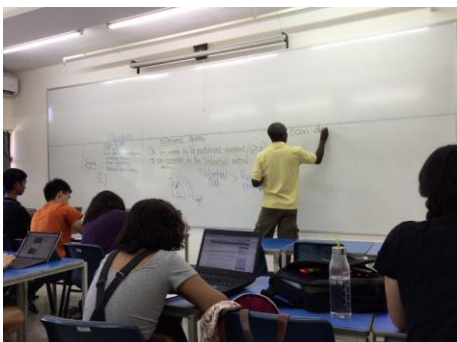
ビジュアル・アーツの授業の一環として、内部でのエキシビションを行った。私たち生徒は、1年間で制作した作品のうちいくつかを選び、それらを自ら配置し、説明文も設置した。エキシビションには、他の生徒や教員が来客として集まり、私たちは彼らに自分の作品の趣旨の説明を行った。

【プロジェクトウィークでの英語キャンプ】

プロジェクトウィークにおいて、私たちのグループはタイへ行った。活動の一つに、現地の政府の学校において英語キャンプを行ったときの様子である。私たちの学校の生徒が現地校の生徒たちのグループに入り、ファシリテーターとして、様々なセッションをした。



【経済の授業の様子】



【カルチュラル・イブニング（ライオンダンス）】

